

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回高山学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年5月13日（月）開会9:30 閉会11:30		
開催場所		つくば市立真瀬小学校2F 普通教室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	飯野誠一、石濱正善、亀山健一郎、飯島賢一、山本敦之 清水 健、根本一城、鈴木一雄、中川 元、堀越直子 宇都宮町子 高山中：校長/荒井克彦、教頭/小林 博、教務/浅野陽子 副教務/毛塚裕之 真瀬小：校長/大久保悦郎、教頭/諸橋智紀、教務/宮本順子 島名小：校長/大西秀重、教頭/小松原英樹、教務/杉崎妙子 香取台小：校長/塚本 明、教頭/佐藤尚子、教務/鈴木一彦		
	その他			
	事務局	学び推進課参事：岡野正人 生涯学習推進課課長：澤頭由紀子 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条1号（個人情報）に該当する情報が含まれるため		
議題		1 学校運営の基本方針について 2 授業参観及び施設案内 3 熟議「地域・学校・保護者で育てていきたい児童生徒像について」 4 その他		

会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 座長・副座長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 授業参観及び施設案内 (3) 熟議「地域・学校・保護者で育てていきたい児童生徒像について」 (4) その他 7 閉会		

<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 高山学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として香取台小学校教務主任、鈴木先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 選任通知書交付</p> <p>事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。</p> <p>(「選任通知書」を飯島委員に交付)</p> <p>続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。</p> <p>高山学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として中川元委員、堀口絹代委員を高山学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。</p> <p>(「委嘱状」を中川委員に交付)</p> <p>ありがとうございました。お席にお戻りください。</p> <p>この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください</p>
--

### 3 挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、学び推進課岡野参事が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。

本日はお忙しい中、第1回高山学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

高山学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っていたいただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしく願いいたします。

出席者自己紹介（各自より）

### 4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしく願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
  - 2 コミュニティ・スクールとは
  - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします  
配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

高山学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議とって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会とって、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグラン

ドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、高山学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。一言で言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずです。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新

しいことをやらなくてもよい 運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものに基づき、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まること

つくばの未来の創り手となる 子どもたちのために御協力をよろしく願います。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（特になし）

## 5 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、高山中学校元PTA会長の亀山委員に座長を、真瀬小現PTA会長の山本委員に副座長お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

## 6 協議

### (1) 学校運営の基本方針について

亀山座長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校より御説明をお願いします。

真瀬小学校(大久保校長)：真瀬小学校グランドデザインの説明

本校の教育目標は「笑顔いっぱい 学びいきいき 楽しい学校」です。

めざす学校の姿として、「子どもたちの笑顔あふれるさわやかな学校」「安心・安全で、居心地のよい学校」「保護者・地域と協力し合える学校」

めざす児童の姿として、「進んで学び、自分らしく表現できる児童」「自他を大切にし、笑顔で生活できる児童」「心身ともに健康でたくましい児童」

めざす教師の姿は資料を御覧ください。

これらを実現させるための今年度の組織目標を「教えから学びへの授業づくりの推進」「良さを語り、協力し合う学級づくりの実現」としました。

教えから学びへの授業づくりの推進については、将来の基礎となる力をつけるため、自分で進んで学ぼうとする意欲や自らの考えを構築して発信する力、様々な考えを受け入れコミュニケーションを図る力をつけることを目指します。良さを語り協力しあう学級づくりの実現については、自分もみんなも笑顔で生活できるようにするためにはどうすればよいかを様々な場面で考え実践することが大切であると考えています。そこから、良さを語るためには、自己理解・他者理解が大切であると捉えています。そして、様々な考え・価値観を受け入れて合意形成を図りながら協力できる体験を教育活動の中に計画的に織り交ぜていくことを実現していきます。以下の

「信頼される学校づくり」「地域と共にある学校づくり」には、今述べたことを実現するための留意点・キーワードが記されています。今年度のキーワードは、チャレンジ・笑顔・協働としました。

（諸橋教頭）特色ある教育活動

1つ目は教育活動の基盤となる学校・学級づくりです。温かい雰囲気のある学級づくりを進め、安心・安全に過ごすことができるようにします。ユニット制を導入（1～3年 ユニット、4～6年ユニット、特支援ユニット）。ユニットを基にした、道徳・つくばスタイル科を実践。その他、地域資源の活用やICTを活用することによって時代の変化やグローバル社会への対応を進めています。また、教職員の資質・能力の向上及び同僚性の醸成に向け、人権研修を進めるなどして、本校の教育目標である「笑顔いっぱい 学びいきいき 楽しい学校」を実現したいと考えています。

島名小学校（大西校長）：島名小学校グランドデザインの説明

島名小学校のグラウンドデザイン

学校教育目標を「心豊かに 自ら学び たくましく歩む児童の育成」としています。昔で言う徳・知・体で目標を設定しています。

「進んで学ぶ子」について：3点キーワードとして特に説明します。

○自由進度学習：自分で進度を決めて自分のペースで学習を進める。

思いやりのあるやさしい子

○ルールメイキング：児童が幸せな学校生活を送るために、子ども達が自分達でルールを決めていく。

健康でたくましい子とは、体だけでなく、心もたくましく育てたいという意味です。

今年度の学校作りのスローガンは「みんななかよく手を取りあって」です。みんなとは、児童だけでなく、島名小に関わる全ての方を意味します。みんなが手を取り合って、幸せな学校づくりを進めていきたいと思っています。

(小松原教頭)

島名小学校の児童の推移：R4は800名 ➡ 香取台と分離して減る ➡ 再び増えてきている（年間で60～70人増）。様々な子どもたちが存在している。全体的な様子/学習面 意欲的に真面目に取り組む児童は多いものの、自主的・主体的に取り組む児童は多くありません。自由進度学習でそれらができるようにしたい。また、本校の課題として、読解力が問題になっている。文章を読み取れない。本年度の重点的な研修としていきたい。

児童の様子：素朴で素直な子たちで落ち着いている。課題としては、個々をみると、特別な配慮を要する子が増えている。特にSルーム（校内フリースクール）を利用する児童も何名かいる。そのような子達にも寄り添いながら配慮をしていきたい。

香取台小学校（塚本校長）：香取台小学校グランドデザインの説明

（塚本）学校組織目標を3つ設定しています。①探究的な学びの創造 ②特別活動を基盤とした思いやりのある児童の育成 ③保護者・地域との連携 です。これらを達成するために、経営ビジョンを教育、学校組織、教職員に絞って設定しています。

どんな児童を育てるかという教育ビジョン：思いやりの気持ちを持ち、他者と協働し自分を高められる児童の育成としています。

学校組織ビジョン：時代のニーズに合わせ、しなやかに対応していく学校組織を創ろうと考えています。

教職員ビジョン：児童の成長のために課題意識をもって研鑽を積む教職員の育成としています。

これらの3つビジョンに対し、それぞれ経営戦略と経営計画を作成しております。

地域・保護者との連携：これなしには学校は成り立たない。学校と地域が対等、責任、信頼という関係づくりが大切であると考えています。中でも、対等の関係づくりが大切であり、一方的に協力してもらうばかりでなく、学校も地域のために活動していくことが必要だと考えており、まさにCSにつながると考えています。

(佐藤教頭)

現在610名。本校の特色ある教育活動

香取台小学校です。

本校は開校2年目を迎えました。現在、児童数610名です。新しく恵まれた学校環境のもと、様々な学校ボランティアに協力して下さる保護者の皆様に支えられております。

本校の特色ある教育活動としては、次の3点です。

1つは、自分から進んで学べる子どもを育てることを目標に、自ら課題を見つけて解決する探究的な学び、自ら計画を立てて追及する自由進度学習、これらICTを活用しながら実践しています。

2つ目としましては、社会や大人とつながる体験活動を重視しています。ZOZO



などの企業とコラボした出前授業や、保護者をゲストティーチャーとして迎え、様々な職業について語っていただく「ようこそ先輩」の活動を取り入れるなど、キャリア活動を推進しています。

3つ目は、新しい学校を子どもたち自身で創り上げることを目標に、カトちゃんプロジェクトというものを実施しています。全校じゃんけん大会やタイピング選手権、交流給食等、子どもたちの「やりたい」を実現し新しい学校を創っています。今年度は、週1回のロング昼休みを設け、縦割り班活動や児童会活動を充実させるなど、子供たちの交流の場を多く持ち、コミュニケーション力を高め、思いやりのある児童の育成を目指していきたくと考えております。以上になります。

高山中学校(荒井校長)：

高山中学校のグランドデザインについて御説明いたします。子ども達を中心におきつつ、学校運営協議会の皆様のお力をお借りしながら学校運営を行っていきたくということを示しています。「めざす教師像」「めざす学校像」を支えにしながら、「めざす生徒像」にある子ども達を育てています。

今年度の組織目標は、「自ら高めよう ともに高め合おう」です。昨年12月に全職員で研修・グループワークを行い、どのような生徒を育てていきたいかを話し合う中で決定しました。というのも、子どもたちに「やらされている感」が強く受け身であり、主体性が足りないように職員が感じてきたからです。そこで、子ども達にチャレンジをさせていこうということで令和6年度の方針を固めました。そのような場をたくさん設け、達成感を味わえるようにすることにより、自己肯定感を高めていきたくとも考えています。そして、互いに認め合えるような風土づくりが大切だとも考えています。以上より、「目指す生徒像」に挑戦する生徒・自ら考え、判断し行動する生徒・自ら学び、学びの成果を発信、共有できる生徒・学んだことを伝えることができる生徒・そして互いに認め合い、合意形成を図れる生徒を掲げています。点線の中には、そのための施策を記しました。つくば市の教育大綱にある、一人一人が幸せな人生を送ることができることを実現するためには、人権教育の推進が大切であると考え、人権尊重の意識の醸成を基盤におきながら、各教育実践を行っているところです。

(小林教頭)

高山中学校の生徒の様子です。年々生徒数が増加。380名在籍。実は教室が足りない。職員の駐車場も足りない、という状況です。学習面では、どの生徒も授業に意欲的に取り組む姿が見られます。素晴らしいお子さん達を小学校から届けてもらっていると実感。休み時間にはかなり多くの生徒が休み時間に校庭に出て遊んでいて、明るく元気に活発に生活をしています。また、部活動にも非常に熱心に取り組んでいます。しかし、部活動の地域移行に大きな課題を感じているところです。まさに、コミュニティ・スクールで地域の課題として取り組んでいけたらと考えております。行事にも生徒は一生懸命取り組んでいます。

今月末に体育祭を予定していますが、ぜひ、皆様にも御覧いただけたらと思います。義務教育最後の3年間で、社会の中で幸せに生き抜く力を育てられるように、様々な施策を通じてしていきたいと思います。委員の皆様と協力して行っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

亀山座長：先生方御説明ありがとうございました。各校に説明して頂いたグラウンドデザインについて、御質問はございますか。

(➡特になし)

では、先に進めさせていただきます。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。これを踏まえて、この推進会議においても、委員の皆様にご賛同をお願いしたいと思います。令和6年度学園・各校のグラウンドデザインに御賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

亀山座長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(2)

亀山座長：これより授業参観に移りたいと思います。

— 授業参観及び施設案内 —

(3) 熟議

亀山座長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを真瀬小学校の諸橋教頭先生をお願いして、よろしいでしょうか。

諸橋教頭：(承認)

亀山座長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしく願いいたします。

諸橋教頭：熟議のテーマと進め方の説明

テーマ「地域・学校・保護者で育てていきたい児童・生徒像」

・各グループでの熟議 40 分間

— 熟議 —

亀山座長：熱心な御協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

真瀬小学校グループ

・自分が何者かが言える、アイデンティティの確立

➡ 体験が必要。でないとも視野が狭い。

・自立した学習者

➡ 何をもって自立とするかをしっかりと。➡ 教師も「教える」から脱却

できていない。アップデートが必要。➡ 子どもから「教わる」ことができるセンスも大事では。学びのチャンスを生かす。これからの教師は多様な解に対応できることも大事。

- ・多様な子ども達に教師だけで対応するのは難しい。だからこそコミュニティ
- ・スクールの取組みに価値があるのではないだろうか。

#### 島名小学校グループ

- ・あいさつができる児童。➡ 地域から声かけが大事なのだが、御時世として知らない人からの声掛けは難しい ➡ ビブスなどで目印をつけてもらいながら、下校時刻に協力してもらおうというアイデアが出た。
- ・自己肯定感をもってほしい。

#### 香取台小学校グループ

- ・ウェルビーイングで「幸せの四因子（やってみよう/ありがとう/なんとかなる/ありのまま）」を体験できる子
- ・アクティブラーニングで自主的に行動したり自己決定したりできる子
- ・思いやりの心をもってコミュニケーションできる子
- ・自分の思いを言語化、可視化する中で創造力を育む

△現状は、素直な子である反面、自分のことばかりに関心がいきがち。横並びの意識も大きい。

- 地域の人材が生きる仕組み、取組み、を作っていきたい。ベースとなる自治会がないが、学校へのボランティア参加者は多い。この仕組みと取組みを作っていくことで課題を解決していけるのではないか。

#### 高山中学校グループ

- ・元気な挨拶ができる生徒 ➡ コロナ前は小中交流で挨拶運動をやったり、地域で声かけをしたりしていたが、時世がら知らない人から声をかけることが難しい。
- ・自分の考えをしっかりと述べることができる生徒

△現在の子どもの姿として、体力が落ちている。多様な体験が不足している。

- ➡ 様々な体験をしている子が様々な問題を解決できる。
- ➡ これまで地域ですてきたことを体験させてあげたいが、それを学校に投げれば学校に負担がかかる。➡ どのようにすれば地域と共に解決できるのかを考えていくことがこのコミュニティ・スクールではとても大切。

諸橋教頭：委員の皆様、ありがとうございました。いろいろ話題が上がりましたが、その中でキーワードとして挙げられたのは、

- ・体験が必要である
- ・チャレンジできる
- ・大人がアップデートしないと子ども達に還元できない
- ・挨拶/地域での声掛けの仕方の工夫

です。ほかにも、先生達がタイミングよく子どもの話を聞き取れるセンス

を身に付けてほしいということや、学校、地域、保護者が同じ方向にベクトルを向けられることが大事だという御意見がありました。以上です。

亀山座長：発表者の皆さん、ファシリテーターの諸橋先生ありがとうございました。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか。

#### (4) その他

諸橋先生：次回ですが、令和6年10月1日(火)9:30を予定しています。会場は香取台小学校です。第3回は令和6年12月5日(木)高山中学校、第4回は令和7年2月20日(木)島名小学校を予定しています。

亀山座長：それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

#### 7 閉会

事務局：亀山座長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思っております。委員の皆様、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。以上をもちまして、令和6年度 第1回高山学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

令和6年度 第1回高山学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年 5月13日(月)

9:30～

場所：真瀬小学校 2F 普通教室

次 第

- 1 開 会
- 2 選任通知書交付
- 3 教育長挨拶
- 4 説明事項  
つくば市のコミュニティ・スクールについて
- 5 座長・副座長の選出
- 6 協 議
  - (1) 学校運営の基本方針について
    - ・各校のグランドデザインの説明
  - (2) 授業参観及び施設案内
  - (3) 熟議 テーマ  
「地域・学校・保護者で育てていきたい児童生徒像について」
  - (4) その他
    - ・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について
    - ・高山中学校体育祭開催について【5/25(土)予備日5/26(日)】
- 7 閉 会

令和6年度 高山学園コミュニティ・スクール推進会議  
(第1回:5月13日 月曜日) 受付名簿

番号	委嘱の区分	氏名	よみがな	所属・役職
1	(1) 地域住民	飯野 誠一	いいの せいいち	元学校評議員
2	(1) 地域住民	石濱 正善	いしはま まさよし	元学校評議員
3	(2) 児童・生徒の保護者	亀山 健一郎	かめやま けんいちろう	元PTA会長
4	(5) 学校長	荒井 克彦	あらい かつひこ	校長
5	(6) 教職員	小林 博	こばやし ひろし	教頭
6	(6) 教職員	浅野 陽子	あさの ようこ	教務主任
7	(6) 教職員	毛塚 裕之	けづか ひろゆき	副教務主任
8	(4) 学識経験者	飯島 賢一	いいじま けんいち	元学校評議員
9	(2) 児童・生徒の保護者	山本 敦之	やまもと あつし	PTA会長
10	(2) 児童・生徒の保護者	清水 健	しみず たけし	PTA副会長
11	(5) 学校長	大久保 悦郎	おおくぼ えつろう	校長
12	(6) 教職員	諸橋 智紀	もろはし ともり	教頭
13	(6) 教職員	宮本 順子	みやもと じゅんこ	教務主任
14	(6) 教職員	吉原 勝	よしはら まさる	副教務主任
15	(2) 児童・生徒の保護者	根本 一城	ねもと かずしろ	PTA共同代表
16	(2) 児童・生徒の保護者	石川 貴子	いしかわ たかこ	PTA共同代表
17	(1) 地域住民	渡辺 恵美子	わたなべ えみこ	PTA顧問
18	(4) 学識経験者	鈴木 一雄	すずき かずお	元学校評議員
19	(5) 学校長	大西 秀重	おおにし ひでかず	校長
20	(6) 教職員	小松原 英樹	こまつばら ひでき	教頭
21	(6) 教職員	杉崎 妙子	すぎさき たえこ	教務主任
22	(1) 地域住民	宇都宮 町子	うつのみや まちこ	元学校評議員
23	(2) 児童・生徒の保護者	堀越 直子	ほりこし なおこ	PTA共同代表
24	(2) 児童・生徒の保護者	堀田 誉	ほった ほまれ	PTA顧問
25	(3) 地域学校協働活動推進員	中川 元	なかがわ げん	元PTA顧問
26	(3) 地域学校協働活動推進員	堀口 絹代	ほりぐち きぬよ	元PTA会計
27	(5) 学校長	塚本 明	つかもと あきら	学校長
28	(6) 教職員	佐藤 尚子	さとう なおこ	教頭
29	(6) 教職員	鈴木 一彦	すずき かずひこ	教務主任
30				



令和6年度  
つくば市立高山中学校 グランドデザイン



校訓

至誠

勤労

協和



茨城県教育目標

- ・ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- ・じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- ・郷土を愛し 協力しあう心を育てる

高山学園教育目標

元気なあいさつ 深い学び 伸びる学園・学校

学校教育目標

自らを信じ 豊かな心で  
たくましく生きる生徒の育成

つくば市の教育

- ・学びたくなる楽しい学園・学校
- ・自己実現できる学校
- ・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校

組織目標: 自ら高めよう とともに高め合おう

目指す生徒像

チャレンジ 学び つながり

- ・将来の夢や目標をもち、自分の可能性を広げることに積極的に挑戦する生徒
- ・自ら考え、判断し行動する生徒
- ・自ら「問い」を見出し、自ら学び、学びの成果を発信・共有できる生徒
- ・自分の意見や考えを、相手意識・目的意識をもって伝えることができる生徒
- ・お互いのよさや違いを認め合い、協力し、ともに生きようとする生徒
- ・多様な考えや意見を大切にし、合意形成を図り、実践につなげられる生徒
- ・社会とのつながりを意識し、自己を向上させるとともに、自らの社会をよりよく変えていこうとする生徒

○「自己決定の場」の提供と「認められる場所と環境」の設定 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ○単元を通じた探究的な学びのデザイン ○対話的な活動の充実 ○ICTの効果的活用 ○いじめのない安全・安心な学校風土の醸成

人権教育の推進

目指す学校像

- ・生徒の「生きる力」を育む特色のある教育活動を進める学校
- ・小中学校教育の系統性を重視し、小中一貫教育を推進する学校
- ・安心・安全な学校
- ・家庭や地域から信頼される学校
- ・家庭・地域との連携を図り、協働する学校

目指す教師像

- ・教育に夢と情熱をもち、親切で学び続ける教師
- ・生徒を生かし、伸ばす教師
- ・授業の工夫改善に励む教師
- ・チーム高山で使命感のある教師
- ・業務の効率化を図り、働き方改革を押し進める教師

高山学園学校運営協議会



2024年度

# 高山学園つくば市立真瀬小学校グランドデザイン

- 【茨城県】すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり  
 ~自ら考え、行動し、よりよい社会の創造に貢献できる「人財」の育成に向けて~
- 【つくば市】みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園  
 ~自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校~

【高山学園教育目標】 元気なあいさつ 深い学び 伸びる学園・学校

【学校教育目標】 笑顔いっぱい 学びいきいき 楽しい学校

めざす学校の姿	めざす児童の姿	めざす教師の姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供たちの笑顔あふれるさわやかな学校</li> <li>○安心・安全で、居心地のよい学校</li> <li>○保護者・地域と協力し合える学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んで学び、自分らしく表現できる児童</li> <li>○自他を大切に笑顔で生活できる児童</li> <li>○心身ともに健康でたくましい児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ともに学び児童の可能性を引き出す教師</li> <li>○協働し高め合える教師</li> <li>○自ら学び続ける教師</li> </ul>

【学校組織目標】  
 ☆「教え」から「学び」への授業づくりの推進 ☆よさを語り、協力し合う学級づくりの実現

【校内研修テーマ】  
 児童の学びの幅を広げる指導の在り方  
 ~「学びたいことが学べる」授業の展開(問いの工夫や対話を通して)~

## 【本年度の育成目標】

<p>【未来を拓く知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「教え」から「学び」へと深化させる</li> <li>・子供自身の学びの尊重</li> <li>・学習の「ねらい」の焦点化</li> <li>・ゴールの姿を見据えた学びの幅の拡充</li> <li>・学びを引き出す「問い」の工夫</li> <li>・「対話」スキルの向上</li> <li>・視点を与えた「振り返り」</li> <li>○一人一台端末の効果的活用</li> <li>・共有化、アウトプットの場面で</li> <li>・振り返りを充実するために</li> <li>○家庭学習の習慣化</li> <li>・一人一台端末を活用した個別支援</li> <li>・読書の習慣化</li> <li>・オンラインやデジタル教材を活用した学習の展開</li> </ul>	<p>【豊かな心】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当たり前を大切にできる児童の育成</li> <li>・気持ちの良いあいさつのできる子</li> <li>・進んで働くことのできる子</li> <li>○道徳教育の充実</li> <li>・思いやりの心の育成</li> <li>・自分の成長と変容の実感</li> <li>○話し合いの充実による合意形成・意思決定</li> <li>・異学年学習</li> <li>「縦割り班」「ユニットグループ」</li> <li>・児童主体の児童集会や学校行事</li> <li>○体験活動の計画的実施</li> <li>・保幼小中、地域との交流・連携・協働</li> <li>○人権教育の充実</li> <li>・「なかよし集会」(異学年による人権集会)</li> <li>・教科横断的な人権学習の展開</li> </ul>	<p>【健やかな体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体力の向上</li> <li>・準備運動の工夫(学園体操)</li> <li>・運動量の確保</li> <li>・ICT機器の活用</li> <li>・外遊びの奨励</li> <li>○健康教育の展開と生活習慣の確立</li> <li>・性に関する指導</li> <li>・生命の安全教育</li> <li>(薬物乱用防止・SOSの出し方)</li> <li>・食育(早寝、早起き、朝ごはんの励行)</li> <li>○栄養指導、食物アレルギーの対応</li> <li>・担任・栄養教諭による食育授業</li> <li>・教職員研修の充実</li> <li>○登下校時の安全確保</li> <li>・交通指導、交通安全教室</li> <li>・避難訓練の工夫と充実</li> </ul>
---	---	--

R6 真瀬小教育活動のキーワード 「チャレンジ」・「笑顔」・「協働」

## 【「信頼される学校」づくり】

- 教育活動の基盤となる学級・学校づくり
  - 居場所のある安心して過ごせる学級・学校をつくるための温かい雰囲気づくり
  - ユニバーサルデザインの視点に立った授業の展開
  - 月1回の学校生活アンケート・面談等による児童の様子の把握
  - ユニットリーダー会議を軸とした情報共有と協働体制の構築
- 自立と社会参加に向けた特別支援教育の充実
  - 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築
  - 個別の支援計画・指導計画の作成と一人ひとりのニーズに合った支援
  - 保護者や関係機関との連携、専門家派遣による研修の充実
- 時代の変化やグローバル社会への対応
  - 自己の可能性の発見、その実現に向けたキャリア教育の充実
- 教職員の資質・能力の向上及び同僚性の醸成
  - 「組織目標」及び「資質の向上に関する指標」からの自己目標の設定と実践
  - 「人権教育指導資料」を活用した人権に関する定期的な校内研修の充実
  - 未然防止のためのコンプライアンス研修の実施(新聞記事等をもとにした事例研修の実践)
  - 市の学校教育研究支援、県の研修プログラムを生かした、キャリアステージに応じた資質・能力の向上



真瀬小キャラクター  
「ませラッティ」

## 【「地域とともにある学校」づくり】

- 家庭・地域との連携・協力
  - 学校経営・運営方針、具体的な情報等の積極的な発信と学校評価等による改革の実施
  - 地域の人的・物的資源の積極的な活用(ゲストティーチャー、現地での体験活動等)
  - 登下校指導、防犯パトロール、通学路の危険箇所確認等(家庭・地域への協力の呼びかけ)
  - コミュニティ・スクール導入による学園体制の構築





# 令和6年度 高山学園つくば市立島名小学校 グランドデザイン



## 茨城県教育目標

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性を培う
- しょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

## つくば市教育目標

みんなが幸せを実感できる 学園・学校  
自己実現できる学校  
みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校

## 高山学園教育目標

元気なあいさつ 深い学び 伸びる学園・学校

## つくば市教育大綱

一人ひとりが  
幸せな人生を送るために

- ①「教え」から「学び」へ
- ②「管理」から「自己決定」へ
- ③「認知能力偏重」から「非認知能力の再認識」へ

## 【校訓】 強く 正しく 美しく

島名小学校 学校教育目標  
学校経営の方針

心豊かに 自ら学び たくましく歩む 児童の育成

- 笑顔があふれ、「みんなにやさしい学校づくり」を推進する
- 児童と教職員の人權感覚を高める
- 時代の変化に対応し 自ら考え・自ら学ぶ児童を育成する



R6 学校づくり スローガン

# みんな なかよく 手をとって

## めざす学校像

- ① 児童が生き生きと活動する楽しい学校
- ② 安心・安全な学校
- ③ 保護者や地域住民から信頼される学校

## めざす児童像

- ① よく考え・自ら学ぶ児童
- ② 人とかわり合い 思いやりのある児童
- ③ 心身ともに健康で 明るくたくましい児童

## めざす教師像

- ① 明るく・やさしく・意欲的な教師
- ② 児童一人ひとりの能力を伸ばす教師
- ③ 保護者や地域から信頼される教師

- 学校組織目標
- 一人ひとりの児童が生き生きと活躍できる活動づくり
  - 一人ひとりの児童が意欲的に学ぶ授業づくり

## すすんで学ぶ子

- ◇自分で考える児童を育てる
- ◇様々な人と学び合う児童を育てる
- 「児童が自ら学ぶ授業」の推進
- ペア・グループによる学習形態の工夫
- 自由進度学習の推進
- 「読解力の育成」を重視した授業の充実
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ユニバサルデザインによる授業展開
- 一人一台タブレット端末 デジタル教科書の有効活用
- 「非認知能力」を育てる環境づくり
- 保幼小中連携の充実
- 認知機能強化トレーニングの推進

## 思いやりのあるやさしい子

- ◇誰にでもやさしくできる児童を育てる
- ◇多様性を認められる児童を育てる
- 「自分たちで考える」活動の充実 (ルールメイキングの活動)
- 自己肯定感を高める活動の充実
- 特別活動の充実による 望ましい集団づくり
  - ・温かな人間関係づくりの活動
  - ・異学年交流
- 特別支援教育の充実
  - ・「発達特性」の研修の充実
  - ・インクルーシブ教育の推進
- 児童の発達を支える生徒指導
- 人權教育の推進
  - ・高山学園重点推進課題
  - ・いじめゼロ集会
  - ・性的マイノリティサポート体制

## 健康でたくましい子

- ◇安全に生活できる児童を育てる
- ◇心身ともに健康な児童を育てる
- 体育の授業の充実
  - ・十分な運動量の確保
- 体力アップ推進プランの推進
- 家庭との連携を基盤とした食育の充実
- 規則正しい生活習慣の確立
  - ・早寝早起き朝ごはんの推奨
- 「危険回避能力」を高める指導の充実
- 食物アレルギーへの対応
  - ・職員研修の充実
- 登下校時の安全確保
  - ・日常の交通指導
  - ・通学路点検
- 高山学園引き渡し訓練の実施

## 保護者や地域住民から信頼される学校

- 教師の授業力・指導力の強化
- 校内研修の充実 「子どもが生き生きと学ぶ学習指導の追究」
- 学年・学級経営の充実
- 教職員の危機管理意識の向上
- 安心・安全な学校
- 人權意識の醸成
- 多様な学びの場：校内フリースクールの充実
- 教育公務員としての服務規律遵守の徹底

## 家庭・地域と共にある学校

- 学校の教育活動の積極的な発信
- 地域人材との協力・連携・外部講師の招聘
- 外部諸機関との協力・連携
  - ・防犯協会 ・交通安全協会 ・区長会 ・各種行政機関
  - ・つくば警察署 ・高山学園保幼小連絡会 ・SSW
  - ・つくば相談センター ・SC ・つくば特別支援学校
- コミュニティスクール推進準備
- 学校評価を活用した組織マネジメントの推進

## 教職員の「働きがい改革」の推進

# つくば市立香取台小学校グランドデザイン

**<校訓> 協学 協創 協和**  
 ～ともに学び ともに創造し  
 ともに心を合わせる～

**<学校組織目標>**  
 ○探究的な学びの充実  
 ○特別活動を基盤とした思いやりのある児童の育成  
 ○保護者・地域との連携

**<経営ビジョン>**

**茨城県の教育目標**  
 ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう  
 じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う  
 郷土を愛し協力しあう心を育てる

**1 <教育ビジョン>**  
 思いやりの気持ちをもち他者と協働し自分を高められる児童の育成

**つくば市教育大綱**  
 「教え」から「学び」へ  
 「管理」から「自己決定」へ  
 「認知能力優重」から「非認知能力の再認識」へ

**3 <教職員ビジョン>**  
 児童の成長のために課題意識をもって研鑽を積む教職員の育成



**2 <学校組織ビジョン>**  
 時代のニーズに合わせてしなやかに対応していく学校の創造

**<教育ビジョン>**

思いやりの気持ちをもち他者と協働し自分を高められる児童の育成



**<学校組織ビジョン>**

時代のニーズに合わせてしなやかに対応していく学校の創造



**<教職員ビジョン>**

児童の成長のために課題意識をもって研鑽を積む教職員の育成



**<経営戦略>**

- ・探究的な学びの充実
- ・思いやりの心を育む道徳教育の創意工夫
- ・協働体験の重視
- ・自分自身の学びの自覚

**<経営戦略>**

- ・探究的な学びの充実
- ・特別活動を基盤とした思いやりの心の育成
- ・キャリア教育の視点を生かしたつくスタの創意工夫
- ・特別支援教育の充実

**<経営戦略>**

- ・探究的な学びの充実
- ・学級経営の充実
- ・特別支援教育の視点を生かした生徒指導
- ・学年を超えたチームとしての連携

**<経営計画>**

- ・単元全体を見通した問題解決学習のデザイン
- ・問いのある学習課題の設定
- ・対話による課題追究と振り返りの重視
- ・道徳における内容項目の重点化
- ・異学年交流活動の拡大(年8回)
- ・つくばスタイル科における単元の自校化(キャリア・まちづくり)

**<経営計画>**

- ・対話の場面におけるファシリテーターとしての教師の役割の明確化
- ・話し合い活動を基にした児童主体の学校づくり(いじめ・ルールメイキング・カトちゃんプロジェクト)
- ・保護者、地域からの人材バンクの整備とキャリアパスポートの効果的な活用
- ・社会性や豊かな人間性を育てための特別支援学級の交流活動

**<経営計画>**

- ・探究的な学びの拡大(全教科領域より教職員1人1研究)
- ・学級活動(生活上の諸問題を解決する話し合い活動・係活動)の工夫
- ・ケース会議の実施 (speedy & continue)
- ・メンター制の導入による教員間でのサポート体制の確立(経験知の伝承とチーム学校の体制づくり)

17



**【家庭・地域との連携】**

- ・地域人材を活用した学校教育の充実
- ・「対等・信頼・責任」によって結ばれる学校
- ・コミュニティスクールによる保護者・地域との連携

8



**【働きがい支援・働き方改革】**

- ・組織として、働く環境の整備、教職員の学びの場を勤務時間内に設定(月45h・年360h)
- ・教職員の負担感の軽減